

## 「災害発生時における気象観測」

## 【第8回】災害発生時における気象観測

～航空気象群ホームページのコラム「気象の杜」～をご覧くださいありがとうございます。

今回は耕地面積割合、工場立地面積 全国第1位（R3年）の茨城県にある百里基地所在の百里気象隊からお届けします。

早速ですが、百里基地は茨城県の県央地域にあって、飛行場の隣には茨城空港が隣接し、その先には筑波山があります。

百里気象隊は百里基地に所在する航空機や隊員に対し、安全かつ円滑に任務を行ってもらうため、日々気象情報の提供を行っています。

またその一方で、突発的に発生する地震や台風などに伴って災害が発生した際には、災害派遣の一環として現地に赴き、気象観測を実施することもあります。

このため百里気象隊では、災害発生時を想定した救難機の活動に伴い、被災地近傍の気象情報提供のため、飛行場外へ出向き、気象観測を行うという「展開訓練」を実施しましたので紹介します。

訓練を行うにあたり、せっかくやるのであれば今まで実施したことのない場所で行いたいと考え、初の試みとして百里救難隊の協力を得て、救難隊の訓練場所における気象観測を行い、救難機への気象情報の提供を行うことに決定しました。

今回訓練を行った場所は、茨城県と福島県の県境にそびえる山の山頂です。



訓練を行う山までは百里基地から3時間程かかるため、訓練を行う日は朝早く（日の出前）から出発して観測場所へ向かいました。訓練を行う山の標高は1000メートルを超えるため、地上の気温よりの約10℃程低くなります。このため、この時期は防寒対策が必須となります。その一方で、山にはブナやナラが生い茂るため、珍しい植物や小動物に出会うことができる自然の宝庫で、山頂には大パノラマを満喫できる展望台や神社があって、古くから信仰の山としても知られている場所です。



さらに今回の訓練では、地上の観測を行う組と航空機に搭乗して上空から観測する機上観測を行う組（予報官と気象観測員）を同時に行うことができました。気象観測員はパイロットではありませんが、今回のように航空機に搭乗して観測を行うこともあります。これにより、普段乗ることのない救難機に搭乗したことで、気象観測業務の重要性を改めて実感するとともに、自ら予報した飛行エリアの気象状況を実地に確認できたことは、予報官としてのプロフェッショナル魂に火が付いたこと言うまでもありません。

最後に、今回の訓練をきっかけに今後も積極的に飛行場以外の場所での気象観測を行うことで、気象観測員の技量向上やプロ意識の醸成、さらには、災害等の不測事態への迅速な対応ができるよう精進していきたいと思っています。

茨城県はその広大な土地により、「メロン」や「ナシ」、「栗」などの果物があります。また、大洗港や鹿島港では「あんこう」や「しらす」、その他魚介類が豊富です。都内からもアクセスが良好です。是非とも茨城県に来たらいがっぺ！